令和６年度　山梨県相談支援従事者現任研修　４日目GSV講義　　　　　　　　　　　　　　　　　　資料１

【模擬事例・概要】

１．プロフィール　氏名：TS様　年齢：64歳　性別：男　　　　　ニックネーム：やさしい先生さん

　　　　　　　　家族構成　妻・義母　（娘2人　長女：既婚。市内に家を建て別居　孫が生まれる　次女：単身別居）

　　　　　　　　障害程度　くも膜下出血後遺症による高次脳機能障害

２．相談までの経過

平成27年11月に基幹相談支援センターに夫婦で相談。３０年教職につき、平成26年に膜下出血で倒れ、高次脳機能障害が後遺症として残った（現在服薬は無し、年1回総合病院にてCT経過観察）。当時まだ休職中であり、復職も考えていたが同年12月に年度内での退職を決意された。H28年3月に障害者職業センターで職業評価をした結果、「一般就労は厳しく、身体的には問題ないが、記憶力・集中力の保持が苦手で、単独行動も難しく日中活動の福祉サービスが必要」であった。評価を踏まえ、ご本人・奥様は就労より「本人の楽しみや人との関りの機会を増やす過ごし方で社会復帰を目指していくこと」を選択された。サービス利用に向けた支援及び、本人の生きがい探しで基幹相談支援センターでは、地域活動支援センターA、就労継続支援事業所B、放課後デイC(ボランティアとして）、就労継続支援事業所D、就労継続支援事業所Eを見学され、H28年7月中旬に事業所Eで体験後正式に利用開始。相談支援事業所Fの相談支援専門員が計画相談を担当。就労継続支援事業所E事業所の利用は現在6年半が経過。当初見られた集中力の散漫や、同じ方に対して同じ質問を繰り返すことによる人間関係のこじれも徐々に見られなくなり、作業の幅も広がり、段ボール部品のバリ取りやボンドによる貼り、仕切りの組み等を行っている。令和3年１月に相談支援事業所Fの相談支援専門員が退職し、相談支援事業所G（E事業所の同法人）が計画相談担当となる。その後、令和６年９月に相談支援事業所Hに計画相談が変更となった。

３．ご本人の生活及びご本人の意向

土曜日や通院の日以外は、ほぼ休まずに通い、休日は市のコミュニティー7バスを利用して単独で行動されているほかは、友達の誘を受け好きなラーメンを食べに連れて行ったり、奥様と外出されたりしながら家でのんびりと過ごされている。E事業所利用開始間際のモニタリングでは、バスにのって小学校の前を通過すると、「自然と涙がこぼれてくる」などの発言があった。「病気になったことは仕方がないことであるが、もう一度子どもたちと接する仕事ができたら幸せ」と寂しげに話すことがあった。E事業所の利用をする中で、最近は、「一生懸命頑張りますけど、働いて健康に過ごしたい。歳もとったからそんなにもう働かないですけど。今年は孫が出るんでね。一緒に遊んだりね、カメラやビデオを撮りたい。私は家族旅行に毎年2回行ってたから、またいつか行きたい。そのためには健康にいないとね。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　４．E事業所での支援経過

当初見られた集中力の散漫や、同じ方に対して同じ質問を繰り返すことによる人間関係のこじれも徐々に見られなくなり、作業の幅も広がり、段ボール部品のバリ取りやボンドによる貼り、仕切りの組み等を行っている。気さくに話をされ、家族思い（奥様、娘さん、愛犬＜亡＞）で優しい性格の方である。任されたお仕事を真剣に遂行できる。冗談交じりに話をするのが好きである。６５歳で福祉サービスの終了を宣言されている（R6.9月モニタにて）。歴史が好きで、在住市の遺跡や遺構などを巡るイベントに参加をしたことがある。大学の時の同級生がラーメン仲間である。コミュニティーバスの周遊が現在の楽しみ。

５．検討したいテーマ（アドバイスをもらいたいこと）

現在は、「働くことで健康を保ち、好きなことや家族との時間を楽しめるように支援していく」を総合的な援助方針に掲げているが、７年間リハビリ目的で福祉サービスを利用されてきた。短期記憶の回復もだいぶ良くなってきている。今回福祉サービスを来年３月で終了される宣言をされており、

・「再度子どもたちと接する機会（教職員の経験を活かして）」が提供できないか。

・「教職員をしてきてよかったな」とご本人が思っていただける試みが何か提供できないか。